

【樹木・草花の部屋】

フジバカマ（キク科ヒヨドリバナ属 *Eupatorium fortunei*）

【別名】 香草（漢名）、蘭草（漢名）、香蘭、王者香

【名前の由来】 花の色が藤色で、花弁の形が 袴（はかま）のよう。

写真－1 フジバカマ

→

撮影日：2012年5月13日

撮影場所：奈良県馬見丘陵公園にて



←写真－2 フジバカマ

撮影日：2012年7月29日

撮影場所：奈良県馬見丘陵公園にて



写真－3 ↑ フジバカマの花

撮影日：2011年10月26日

撮影場所：奈良県フラワーセンターにて



↑ 写真－4 フジバカマの花

撮影日：2011年10月26日

撮影場所：奈良県フラワーセンターにて

【樹木・草花の部屋】

<ちょっと一言>

フジバカマは秋の七草の一つ。古い時代に中国からもたらされた帰化植物であると考えられている。各地で栽培されているが、自然状態における生育地としては、湿った場所であり、河原や川岸が最も典型的であろう。里地の植物として減少しつつある植物であるとされ、保護・保全の対象と扱われることが多く、各地の河川改修などで保護の対象とされている。

播種するとよく発芽し、容易に栽培できるが河川環境の変化などによって、減少しつつある。栽培されると草丈は 1m ほどになり、8月から9月にかけて花を咲かせる。葉は3裂するのが普通であるとされるが、特に下部の葉は分裂しないことも多い。葉は対生し、短くても明らかな葉柄がある。

近似種

サワヒヨドリ：花がそっくり、葉が3裂することもあるが、サワヒヨドリは葉柄がないことによって区別できる。

ヒヨドリバナ：葉がやや厚く、表面に光沢があって裏面に腺点がない点で区別される。

<ちょっと二言>

秋の七草

[ハギ](#)（萩）、ススキ（薄、尾花）、クズ（葛）、ナデシコ（撫子）、オミナエシ（女郎花）、フジバカマ（藤袴）、[キキョウ](#)（桔梗）

『春の七草は厳しい冬を乗り越えるための、食べる七草であるが、秋の七草は鑑賞する七草である。』

万葉集には

「芽子の花 尾花葛花鬘麦の花 女郎花また藤袴 朝貌の花」 山上憶良

奈良県レッドデータブックによると

フジバカマは

●奈良県選定種目録（11/16） 植物【維管束植物】No.525

絶滅種に指定されています。